

平成29年3月宮古市議会定例会一般質問通告一覧表

(質問順)

質問月日	質問者	質問事項	
3月6日 (月曜日)	19番 佐々木 勝 議員 (尽政クラブ)	1 重点プロジェクト事業について 2 産業・経済復興に向けた取り組みについて	P 1 P 1
	12番 須賀原チエ子 議員 (ネクストみやこ)	1 八木沢地区新駅整備場所は住民合意で 2 保育士の処遇改善を 3 定住促進のために屋内の遊び場の設置を	P 2 P 3 P 3
	21番 竹花 邦彦 議員 (新風クラブ)	1 「未来を切り開くまちづくり」等について 2 田老新駅整備について 3 土地区画整理事業換地に係る盛土擁壁について	P 4 P 4 P 4
	7番 中島 清吾 議員 (日本共産党)	1 仮設住宅の備品の無償譲渡について 2 学校の適正配置について	P 5 P 5
	1番 今村 正 議員 (無所属)	1 防災行政無線戸別受信機について	P 6
	8番 伊藤 清 議員 (無所属クラブ)	1 平成29年度宮古市経営方針について	P 7
3月7日 (火曜日)	14番 橋本 久夫 議員 (ネクストみやこ)	1 中心市街地商店街の活性化について 2 歩道橋の安全管理と課題について 3 若者定住化対策におけるスポーツの振興について	P 8 P 8 P 8
	23番 坂下 正明 議員 (無所属クラブ)	1 活力に満ちた産業振興都市づくりについて	P 9
	18番 長門 孝則 議員 (無所属クラブ)	1 地方創生と雇用の創出について 2 フェリーの就航について 3 大型船の誘致について 4 高齢者の地域での活躍について	P 10 P 10 P 11 P 11
	2番 小島 直也 議員 (公明党)	1 災害公営住宅への入居について 2 教育行政方針について 3 家庭教育への支援について	P 12 P 12 P 12
	17番 坂本 悦夫 議員 (新風クラブ)	1 なぜ「いじめ」問題は進化しないのか	P 13

質問月日	質問者	質問事項	
3月8日 (水曜日)	26番 田中 尚 議員 (日本共産党)	1 宮古市のあるべき姿について 2 市の政策形成について	P 15 P 16
	20番 落合 久三 議員 (日本共産党)	1 宮古市魚市場の水揚増の取り組みについて 2 産業、観光振興について	P 17 P 17
	4番 佐々木 清明 議員 (尽政クラブ)	1 認知症対策について 2 認知症介護と経済負担について 3 老老介護と孤立する家族への支援策は	P 18 P 18 P 18
	5番 白石 雅一 議員 (復興を考える会)	1 宮古市が考える地域おこし協力隊とはなにか 2 宮古版DMOにおける宮古市の役割は	P 19 P 19
	9番 内館 勝則 議員 (無所属クラブ)	1 合併後の評価検証をしっかりと 2 地方創生拠点整備交付金の積極的活用を 3 西の玄関口「区界」の地域振興策について	P 21 P 21 P 21

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 3月6日(月)

質問順位 1番

質問者 議席番号 19番 佐々木 勝 議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 重点プロジェクト事業について	<p>災害時に必要なエネルギーを供給できる体制づくりと、多様な自然エネルギー資源を活用する施策を重点プロジェクトとして位置付け、積極的に取り組む姿勢は、経営方針の中に平成28年度まで明記されていた。しかし、先般示された平成29年度経営方針の中からは、除外されているが、政策転換によるものなのか、事業目的が達成されてのことなのか伺う。</p> <p>また、プロジェクト事業に関連し、平成28年3月定例会でブルーチャレンジ事業構想について質した時の答弁は、多様な補助メニューを検討し、可能性について研究するとしていたが、その後どのような検討がなされているのか伺う。</p>	
2 産業・経済復興に向けた取り組みについて	<p>① 宮古・室蘭間フェリーの就航、三陸沿岸道路、宮古盛岡横断道路の整備進展など、本市の経済復興にとって好環境が整いつつある現況にありながら、企業立地環境の整備や誘致活動に意欲的に取り組む姿勢が経営方針や新年度予算に明示されていないことに大いに不満を持っている。待ったなしの経済復興について、どのような決意を持っているのか改めて見解を伺う。</p> <p>② 地域の被災面積が大きく、復旧復興作業が遅れている赤前地区に関して、平成28年3月定例会で一般質問しているが、その時は、土地の集約作業中であるとの答弁がなされている。その後、復旧工事の進展に伴い、宮古運動公園や水田は整備が進められ、復旧の息吹は感じられるが、それ以外の土地については放置状態とも言える現状にあり、地域の荒廃に繋がりがねないと危惧している。平成28年3月定例会の答弁の中では、土地の集約過程で権利関係等の課題もある旨が示されていたが、その作業はどのように進められているのか伺う。大震災から6年が経過しようとしているが、長年住んでいる地域が、これからどうなるのか将来像を描く手助けをするのが私たちの大きな責任である。この地域の再開発について、どのようなビジョンを描いているのか伺う。</p>	

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 3月6日(月)

質問順位 2番

質問者 議席番号 12番 須賀原 チエ子 議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
<p>1 八木沢地区新駅整備場所は住民合意で</p>	<p>J R山田線は三陸鉄道に経営移管し、平成30年に3駅を新設し共用予定と示された。八木沢地区新駅については、平成26年2月4日に八木沢自治会、八木沢団地町内会が市長に対し、山田線の早期復旧と八木沢駅の新設を要望したもので、市長は設置の方向と回答した。</p> <p>それを受けて八木沢団地町内会ではワークショップを開催し、新駅の場所を含めた新たなまちづくりが話し合われた。平成27年9月定例会での私の一般質問に対し、担当部長は新駅については「現実的に急いでない」との答弁があり、住民は整備場所についての聞き取り等が行われると期待していた。</p> <p>しかし、2月16日の総務常任委員会へ唐突に整備予定場所の説明がされたが、これまで八木沢地区住民への聞き取りや説明は一切なされなかった。地区住民にとって新駅設置は悲願であるが、今回示された場所は八木沢地区の駅とは到底思われない。なぜなら、示された場所は磯鶏地区であり行政区も実田である。</p> <p>八木沢地区住民にとってこの場所では、徒歩では距離があり、特にも高齢者には利用が困難と思われる。しかも、駐車場の整備予定もないことから利用者数は望めない状況と予想される。このことから八木沢地区新駅と受けとめることができず、地区住民は失望している。</p> <p>そこで、八木沢地区住民も利用しやすい新駅の設置が必要不可欠と思うことから次のことを伺う。</p> <p>① 実田二丁目地内竹洞踏切付近を候補地とした理由を伺う。</p> <p>② 想定乗車人員の形態について伺う。</p> <p>③ 八木沢地区住民への聞き取りと説明がなされなかった理由を伺う。</p> <p>④ 今後、八木沢地区住民に対しどのような配慮がなされるのか伺う。</p>	

<p>2 保育士の処遇改善を</p>	<p>保育士は人間形成の時期にかかわる重要な仕事を担っているが、そのことがきちんと評価されているとは言い難い。市は待機児童解消には保育士の確保が重要課題であることは認識しているが、現状では打開策がとられていない。市長は平成29年度宮古市経営方針で、待機児童解消に向けて保育士の処遇改善に努めると明言している。そこで次のことを伺う。</p> <p>① 臨時保育士は職員とほぼ同様の業務内容だが、給与に差がある。職員の給与に近づけることが必要と思うが考えを伺う。</p> <p>② 職員と臨時職員の割合が6対4になっている。臨時職員から職員への移行が必要と思うがどうか。</p> <p>③ 現状においては、勤務時間内において、保育の準備、計画、会議等の時間を確保することが困難となっていることから、業務改善が必要と思うが考えを伺う。</p>	
<p>3 定住促進のために屋内の遊び場の設置を</p>	<p>定住化促進対策特別委員会わらすかで部会のアンケートでは「子供が安心して遊べる場」の設置を希望する回答が多かった。現代は子供が外で安心して一人で遊ぶことが難しい時代であり、核家族化や転勤族も多く子育てが孤立する現状で、希望者が多いのは当然だと考える。</p> <p>今年度の教育民生常任委員会で栃木県大田原市の子ども未来館（大型遊具等を備えた屋内施設）を視察した。そこでは、子供たちが夢中になって遊んでいるとのことで、そのことは子供の健全育成に大変に有効なことであり、素晴らしいことだと考える。同時に保護者同士の交流の場にもなる。当市には子供連れで遊べる場所が少なく、内陸に出かけることも多い。</p> <p>そこで、そのような子供向けの大型遊具を備えた屋内施設が当市の定住促進のためにも必要と考えるが、考えを伺う。</p>	

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 3月6日(月)

質問順位 3番

質問者 議席番号 21番 竹花邦彦議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 「未来を切り開くまちづくり」等について	<p>東日本大震災の復興事業に一定の目途がついた今日、本市の今後の大きな課題は地域経済と雇用の行方及び人口減少対策と認識する。</p> <p>については、次の点について市長のお考えを伺う。</p> <p>① 市長は、平成29年度経営方針において、「未来を切り開くまちづくりに邁進していく」と述べられた。「未来を切り開くまちづくり」とは、現状の宮古市の姿からどういうまちづくりを展望しようとするものなのか、市長の描く宮古市の将来像を示されたい。</p> <p>② 来年度から東日本大震災復興計画の「発展期」を迎える。「発展期」は、震災以前よりも活力があり魅力あふれるまちとするための取組期間とされている。復興需要の減退が見込まれる中で、震災以前よりも産業・経済面の活力を生み出すために柱となる施策・取組み等は何か、具体的に示されたい。</p>	
2 田老新駅整備について	<p>市長は、平成29年度経営方針において、市民の利便性の向上と三陸鉄道の利用促進を図るとして、3新駅整備（八木沢、津軽石弘川、田老）の方針を明らかにした。田老地区は、500メートルの距離に現田老駅と新駅の2つの駅設置となるが、2つの駅設置の必要性和期待する効果等について具体的に示されたい。</p>	
3 土地区画整理事業換地に係る盛土擁壁について	<p>鉾ヶ崎・光岸地地区土地区画整理事業の宅地整備が平成28年度で完了予定とされている。</p> <p>私は平成28年3月定例会予算特別委員会の総括質疑で、換地土地の盛土法面の高さが1メートル未満の土留擁壁は自己負担設置とされていることについて、住まいの再建支援策として市補助実施を市長に質したところである。市長は検討したいとしたが、宅地整備完了の時期を迎える中で、あらためて市長の政策判断を伺う。</p>	

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 3月6日(月)

質問順位 4番

質問者 議席番号 7番 中島清吾議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 仮設住宅の備品の無償譲渡について	<p>宮古市経営方針の基本姿勢の中に、「公正・公平・公開」を信条に」とありましたが、未だに仮設住宅の備品の譲渡に関し不公平との声があります。</p> <p>そこで、次の点について伺います。</p> <p>① 全ての仮設住宅において譲渡が可能になったが、仮設住宅から転居された方々全てが譲渡されたとは思えません。仮設住宅が解体される際には備品とされる物はどのように処分されてしまうのか伺います。</p> <p>② 残された備品について、早期に仮設住宅から転居し譲渡の対象にならなかった方々が利用を申し出た場合の対処について伺います。</p> <p>③ 公共施設、自治会、町内会の集会施設で希望するところにも無償譲渡をするべきではないかと思いますが、見解を伺います。</p>	
2 学校の適正配置について	<p>教育行政方針の学校教育の充実の中に、「宮古市立小・中学校適正配置実施計画を新たに作成し、」とあります。また、「確かな学力」を育む教育の推進では、「わかる授業」で教員の授業力向上を図る。」とあります。</p> <p>学校の統合等で学区が新たに決められ変わるようなことがあると、親にも、生徒にも大きな負担がかかると思われます。また、優秀な教員を育てる事業を行ってもそれを活かす場所がなくなるのは先生方の意欲と雇用に問題が生じると思いますが、見解を伺います。</p>	

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 3月6日(月)

質問順位 5番

質問者 議席番号 1番 今村 正議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 防災行政無線戸別受信機について	<p>昨年12月22日の新潟県糸魚川大火において、防災無線のおかげで一人の死者も出さなかったと報道がありました。200人以上が被災した大火で、被災者の多くが取材に対し、自宅内や事務所内にあった防災行政無線の受信機が発する警告音で火災発生を察知したと証言。火災を知った人々は、隣近所に声をかけ、助け合いながら避難していた。住民2人、消防団員ら9人が軽傷を負う一方で、一人の死者も出さなかったことが明らかになった。近くの住民は、火事の一報は自宅の居間に置いていた受信機からだった。避難後に自宅は全焼したが、難を逃れることができた。同じように受信機が屋内にあった人々は、「受信機がなければ火災に気づくのが遅れていた」と口をそろえた。被害に遭った地区には、防災行政無線を流す屋外スピーカーもあった。しかし、場所によって聞こえにくかったり、音声为重なり合ったりして聞き取れないケースが相次いだ。</p> <p>そこで、次のことについて伺う。</p> <p>平成20年9月定例会の一般質問で、「子局設置よりも経済的である場合は、戸別受信機の設置も考えないわけではないということ、基本的には全部が聞こえること、そして、経済的なものを考えて設置していくということでございますので、ご心配はいらぬというふうに考えております。」という答弁があったが、戸別受信機について、希望があれば設置できるのか伺う。</p>	

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 3月6日(月)

質問順位 6番

質問者 議席番号 8番 伊藤 清議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 平成 29 年度宮古市経営方針について	<p>経営方針における農業振興について、継続的に取り組む事業、施策が中心とは思いますが、経営方針で取り上げるとなれば今年度までの検証を踏まえ新年度においてさらに進めたいと理解するものであります。</p> <p>そこで、課題、改善策、目標数値等具体的な内容について、3点伺います。</p> <p>① 「地域ごとに定めた重点振興品目、推進品目の生産拡大に取り組む」とありますが、重点振興品目と推進品目の違いは何なのか。生産拡大され農家所得が増えているのか。消費者ニーズに合った品目が生産されているのか伺います。</p> <p>② 生産数量や所得を確保するための鳥獣による被害の防止について、「電気牧柵の導入支援」とあるが、今年度までの課題は何と捉えているのか。また、課題を踏まえ、新年度はどのような改善をしようとしているのか伺います。</p> <p>③ 「市鳥獣被害対策実施隊の活動強化」とあるが、どのような強化策を実行しようとするのか。また、課題は何と捉えているのか伺います。</p>	

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 3月7日(火)

質問順位 1番

質問者 議席番号 14番 橋本久夫議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 中心市街地商店街の活性化について	<p>中心市街地商店街においても、シャッターが閉じたままの店舗が目につく。事業者の高齢化や後継者不足、商品のニーズ不足など要因は様々。商店街再生のための魅力向上やブランドづくりに取り組む課題は多々ある。さらに、若い担い手にとってビジネスチャンスとなるような環境を商店街に作り、商店街で活躍する人材を育成することも必要である。大震災後の復興発展期における、商店街の現状の課題と再生をどのように考えているのか伺う。</p>	
2 歩道橋の安全管理と課題について	<p>宮古市内の歩道橋の現状はどのようになっているか。老朽化によつての危険箇所はないのか。建設当時と、現在では社会状況が大きく変化している。バリアフリーの視点からも役目を終えるものもあるのではないか。老朽化を機会に撤去する自治体もある。</p> <p>このような観点から、次の点について伺う。</p> <p>① 安全対策の現状と課題について</p> <p>② 維持管理と今後の必要性について</p>	
3 若者定住化対策におけるスポーツの振興について	<p>2020年東京オリンピックの追加種目になったスケートボード、スポーツクライミングなどが、今、若者に人気のあるスポーツとして注目されている。</p> <p>市内にもスケートボードを楽しむ若者がいるが、練習する場所や自由に遊ぶ場所がない。</p> <p>スポーツクライミングは、過日、岩手県内の中学生が日本一になり、その注目度は高くなっている。</p> <p>昨今のスケートボード愛好者の増加と今後のスポーツ振興のために、若い世代に大きな需要のあるスケートボード、スポーツクライミングができる場所が検討できないか伺う。</p>	

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 3月7日(火)

質問順位 2番

質問者 議席番号 23番 坂下正明議員

質問事項	質問要旨	摘要
1 活力に満ちた産業振興都市づくりについて	<p>① 宮古市経営方針の中の「活力に満ちた産業振興都市づくり」では、各分野にわたって産業振興の施策を述べている。地域振興策の一つとして、川井地区での「どぶろく特区」を申請し、将来的には、川井ブランドとして全国に情報発信し、地域の活性化を目指すべきと考えるが、市の考えを伺う。</p> <p>② 「ふるさと納税」は、地場産業の振興や地域活性化のための施策として、ここ2、3年の間に急速に浸透してきた。また、当市を全国にアピールする絶好の機会と考える。現在は、専門の業者に受注、発送等の業務を委託しているが、寄附をされたお客様にきめ細かなサービス、情報を提供し、リピート客として確保するためにも、また、少しでも経済の地域内循環が可能になるためにも、市内若しくは市内の団体で業務を行うべきと考えるが、市の考えを伺う。</p>	

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 3月7日(火)

質問順位 3番

質問者 議席番号 18番 長門孝則議員

質問事項	質問要旨	摘要
1 地方創生と雇用の創出について	<p>国は、従来の「地方創生推進交付金」に加え、新たに「地方創生拠点整備交付金」を創設し、ソフト事業に加え、施設整備などハード事業も対象に支援するとしている。</p> <p>そこで、次の2点について伺う。</p> <p>① 国は、新型交付金として、900億円（事業費ベース1,800億円）補正し、岩手県分として20件、16億4,200万円交付決定されたとのことであるが、当市に關係する事業があるのか、また、今後、応募予定があるのか。</p> <p>② 宮古市まち、ひと、しごと創生総合戦略の中に「新規立地による雇用の創出と増設による雇用の拡大を図るため、企業誘致活動を行う。」とあるが、これまでの取り組みにおいては効果が現れていないのではないか。今後、どのように進めていこうと考えているのか。</p>	
2 フェリーの就航について	<p>宮古港と室蘭港の326kmを10時間で結ぶ定期フェリーの就航まで、あと1年半をきっていることから、具体的に次の点について伺う。</p> <p>(1) フェリーの関連施設について</p> <p>① 旅客ターミナルビル、人道橋については県が整備するが完成はいつ頃になるのか。</p> <p>② トラックや乗用車の駐車場、照明設備、フェンスなどの整備はいつになるのか。</p> <p>③ タグボートの配置はどうなっているのか。</p> <p>(2) 貨物と旅客について</p> <p>① フェリーの積載能力はトラック69台、乗用車20台で、宮古からは宅配貨物、冷凍食品、野菜など想定されているが、どのように集荷するのか。</p> <p>② 定員は600名であるが、観光客や修学旅行など誘致活動について、集客の取り組みはどうか。</p> <p>(3) 旅客ターミナルなど建物の維持管理やチケット販売、売店等の運営主体はどうなるのか。</p>	

<p>3 大型船の誘致について</p>	<p>岩手県は、約3,000人が乗船できる10万t級の大型クルーズ客船の宮古港への誘致を進めることで、関係機関や専門家と大型船の航行に関する委員会を立ち上げるとしていることから、次の点について伺う。</p> <p>① 航行安全委員会の構成等はどうか。</p> <p>② 寄港するためには、接岸岸壁や8.5m以上の水深など一定の条件が必要とされているが、宮古港は可能と考えるがどうか。</p> <p>③ 大型船の寄港については、官民一体となって誘致活動を展開すべきと思うがどうか。</p>	
<p>4 高齢者の地域での活躍について</p>	<p>高齢者といえば、概して福祉の対象、社会的弱者、おとなしい受け身の存在というイメージが根強かったが、今や元気で寿命も延びており、能動的に活動しなければ社会自体が維持できないのではないかと考える。</p> <p>そこで、豊富な知識や経験、人脈などを持つ高齢者が地域で活躍できる環境を作るべきと思うが、市の考えを伺う。</p>	

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 3月7日(火)

質問順位 4番

質問者 議席番号 2番 小島直也議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 災害公営住宅への入居について	仮設住宅から、災害公営住宅に転居することに苦慮している被災者がおられる。入居の条件に合わない様々な問題があることと思うが、被災者の窮状に寄り添う措置を望む。市の見解を伺う。	
2 教育行政方針について	「子ども達の力強く生き抜く「生きる力」を育む取り組みを、学校、家庭、地域が連携して進めていく」とあるが、学校の規模によって、地域との連携には差があると思うが、どのように連携を進めていこうとしているのか伺う。 また、その地域に生まれ育った逸材を学校に招き講演をしてもらうなど、幅広い人材の起用を考えるべきと思うが見解を伺う。	
3 家庭教育への支援について	不登校児童、生徒の増加を踏まえて、教育機会確保法が制定された。すべての子どもが等しく教育を受けられるよう、様々な策が講じられている。昨今、ライフスタイルの変化、核家族の増加、少子化などの要因と思われるが、家庭教育力の衰退が懸念される。人生において家庭教育は、全ての教育の出発と捉えることができる。周囲から孤立し主体的な家庭教育が困難な家庭に、支援の手を差し伸べる教育を講じるべきと思うが見解を伺う。	

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 3月7日(火)

質問順位 5番

質問者 議席番号 17番 坂本悦夫議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
<p>1 なぜ「いじめ」問題は進化しないのか</p>	<p>1980年代半ばに「いじめ」の深刻化が注目されてから、すでに30年近くが経ちますが、学校と教育委員会のいじめの隠ぺいなど杜撰な対応が何一つ変わっていないのには大変驚く。これは、教育界全体で重く受け止めるべき問題である。</p> <p>自治体レベルでもいじめ防止条例が制定されるなど、法整備が進んだ一方で、いじめを苦に自殺する子どもたちが後を絶たない。</p> <p>昨年11月、原発事故で福島県から横浜に自主避難した中学1年の男子生徒が、小学校で受けたいじめについて書いた手記が公表された。「いままでいろんなはなしをしてきたけどしんようしてくれなかった。だから、がっこうはだいきらい。」子どもたちにこのような思いを味わわせないために「いじめ防止対策推進法」を定めたのではなかったか。そもそも幾度も「隠ぺい体質」を厳しく糾弾されながら、なぜ学校のいじめ隠しはなくなるらないのか、誰もがこのような疑問を感じているはずだ。隠ぺいする学校、教師に対してペナルティを科すことにしないと教育界は変わらないと思う。そこで、次の点を伺う。</p> <p>① いじめは早期発見、早期対応が重要だが、いじめ防止対策として各学校は「学校いじめ防止基本方針」を定めたが、具体的にどのような取り組み、活動を実施しているのか伺う。</p> <p>② 今日の複雑化した「いじめ」の問題は、担任教師が独りで抱え込んで解決できるものではない。教師間で状況を共有し、お互いに連携し、教師集団として対応する姿勢が必要だが、自分の評価に不利になるようないじめ問題等はなるべく他の教師に相談せず、隠そうとする傾向があるようだ。いじめは、教師のせいではなく、どの学校にも、どのクラスにも起こり得るものであり、教師のいじめに対する取り組み姿勢で評価すべきである。個々の教師に対する成果主義の導入については、どう考えるのか伺う。</p>	

	<p>③ いじめ問題が報道されるたびに現場の教師の対応スキルが高くなく、いじめが見えない教師が多いことに驚く。改めて、教員研修のあり方を具体的に議論する必要があると思うが、見解を伺う。</p> <p>④ いじめ防止対策推進法によれば、児童生徒が相当の期間(30日以上)学校を欠席するなど、「重大事態」が生じたときに学校や教育委員会は、事実関係を調査するよう義務付けているが、市内の小中学校には「重大事態」と判断される事案は存在しないのか伺う。</p> <p>⑤ いじめ発見に採用されているアンケートだが、認知の手段として万能なわけではない。実施回数も年数回、今起きているいじめをリアルタイムで把握するのが難しい。そこで、スマートフォンや携帯電話、パソコンから児童生徒がいじめの情報を匿名で学校に通報できる「匿名通報アプリ」を試験導入することを検討してはどうか。SNSの普及で、いじめの把握は難しくなっており、時代に合わせた対策が必要である。</p> <p>⑥ 文部科学大臣は、いじめ解決のために道德教育を強化すると発言しているが、道德教育の教科化はいじめ対策に本当に必要か伺う。</p>	
--	---	--

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 3月8日(水)

質問順位 1番

質問者 議席番号 26番 田中 尚 議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 宮古市のあるべき姿について	<p>市長は経営方針で、宮古市のあるべき姿について、「仕事を持ち、子どもを幸せに育てられるまち」を掲げているが、仕事について言えば、産業政策が問われる。具体化に当たっては、仕事の確保と創出が必要になると思うが、それに向けた目標(戦略)及びその評価について伺う。</p> <p>① 仕事、言葉を変えれば雇用の受け皿への認識と改善方向を伺う。市の安定した雇用の受け皿に何があり、今後は何を強化すべきと考えるか。</p> <p>② 市民所得の低さが指摘されてきたが、改善策の一つとして公契約条例制定の必要性を指摘してきた。中心市街地拠点施設整備事業は途中からJVに地元企業の参加変更となったが、地元経済への貢献度はどの程度期待できるのか。また、市はどのように、その貢献度を高めようとしているのか。</p> <p>③ 岩手県も当市を含む県北地域の産業振興策として農林漁業などの六次産業化及び「食産業」の構築を目標にしている。重茂、田老漁協などの経験を活かして「食産業」を本格的に構築すべきと考えるが、どうか。</p> <p>④ 林業振興策では「振興対策懇話会」を通じた計画的な森林整備の推進と森林の保全を掲げているが、緑の雇用など、その数値目標も含め、その効果が実感できる施策にすべきと考えるがどうか。</p> <p>⑤ 商業振興策では通信販売などネット市場が急成長する中で、商店街での購買力を高める一つの方策として、地域商品券的な健康づくりと一体のポイントサービスを提案してきたが、具体化に向けた検討状況はどうか。</p>	

<p>2 市の政策形成について</p>	<p>① 市長は閉伊川水門整備工事の受け入れ決定に当たり、議会との協議をせず、政策決定したことで「陳謝」し、改善を約束したと理解している。今回、田老の新駅整備にあたり議会との協議もなく、田老新駅は田老総合事務所と合築、一体整備を決定し、マスコミに公表しているが、約束違反ではないのか。</p> <p>② 市長選挙がある時の新年度当初予算は通常の場合、続投もしくは交代であれ後任の市長に配慮し、人件費や扶助費等の義務的経費や継続事業などを柱に骨格予算としてきた記憶がある。提案された予算は、そうした内容か伺う。</p>	
---------------------	--	--

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 3月8日(水)

質問順位 2番

質問者 議席番号 20番 落合久三議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 宮古市魚市場の水揚増の取り組みについて	<p>① 宮古市魚市場の水揚量より大船渡市魚市場のそれが上回っているが、その違いは何だと認識しているか。</p> <p>② 秋サケ、サンマ、イカの不漁などの実態は想像以上に深刻である。資源管理型漁業への一層の移行を国に求めると同時に、地元船の育成、拡大などを通して、水揚増を思い切って推進すべきだと思うがどうか。</p> <p>③ 大型の「貸し冷凍冷蔵庫」を設置し魚の輸入、移入も可能とする受け入れ体制を検討すべきである。当然、設置主体、運営主体をどうするか、財源をどう確保するか等課題は少なくないが、これも避けて通れない課題の一つと思う。市の見解を伺う。</p>	
2 産業、観光振興について	<p>① 産業振興を考えるうえで、震災前と現在の売上げ状況をどう把握しているかがキーポイントであると思うが、どうか。</p> <p>② 建設業を除いて売上げが震災前に戻らないどころか、さらに低迷していると理解しているが、その主要因をどのように考えるか。</p> <p>③ 昨今の観光に関する状況変化にふさわしく、交流人口増を図ることも市の生きる道である。 以前にも提起したが、観光船の新造による宮古～鮭ヶ埼コースの新設などで観光客誘致を促進すべきであると思うがどうか。</p>	

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 3月8日(水)

質問順位 3番

質問者 議席番号 4番 佐々木 清明 議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 認知症対策について	平成28年版高齢者白書によると、認知症患者は、平成24年は462万人、平成27年は517万人、平成32年は602万人、平成37年は675万人に達すると予測されています。平成27年は65歳以上の認知症患者は7人に1人ですが、平成37年には5人に1人と予測されており、50歳～60歳の若年性認知症も増えて来ているが、本市ではどのようにとらえ対策を講ずるのか伺います。	
2 認知症介護と経済負担について	認知症患者数は増え続けており、5人に1人に達すると見込まれている中で、認知症は、がん、脳卒中に次いで怖い病気と思う人が多く、男性よりも女性の方が不安は大きくなっています。認知症は要介護認定(要支援を含む)の原因の上位になっています。認知症介護は通常の介護に比べて常時付き添いが必要など、介護サービスを受ける時間が長くなり、経済的負担が大きくなっているが、どのように考えているのか。また、どのような施策を取っているのか伺います。	
3 老老介護と孤立する家族への支援策は	高齢になればなるほど体力も落ち、在宅介護が厳しくなる。現在は核家族化や非婚化、都市移住が進み家族や地域での「支え合い」が崩れているように思われる。また、プライバシーの問題もあって、苦しむ家族に手を差し伸べにくい。このような家族を孤立から救うために、支援のあり方を考えるべきではないかと思いますが、どのような支援を考えているのか伺います。	

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 3月8日(水)

質問順位 4番

質問者 議席番号 5番 白石雅一議員

質問事項	質問要旨	摘要
1 宮古市が考える地域おこし協力隊とはなにか	<p>地域おこし協力隊の取り組みが全国で行われ、当市においても平成28年12月1日から平成29年2月3日までの約2カ月間に渡って、3つの業務に関して地域おこし協力隊が募集された。</p> <p>しかし、残念ながら今回の3つの業務に対しての応募は無かったとのことである。</p> <p>そこで以下の点について伺う。</p> <p>① 今回、地域おこし協力隊に応募がなかった要因はどこにあると考えるか。</p> <p>② 地域おこし協力隊の募集に際しては、行政・地域・協力隊員とのマッチング格差をなくさなければならぬと感じているが、どのように対策をとったのか。</p> <p>③ 地域おこし協力隊の将来像としては、入ったその地域で自身の経験を活かし、自立・定住していくことにあると思うが、市として地域おこし協力隊の将来像をどのように考えるか。</p>	
2 宮古版DMOにおける宮古市の役割は	<p>国において日本版DMOが策定されて以来、全国各地で日本版DMO候補法人が次々と観光庁に登録されている。当市においても日本版DMOを具体化する地域組織として、宮古観光文化交流協会が昨年9月に観光庁に登録申請しており、宮古版DMOとしてその活動を開始したところである。</p> <p>そこで以下の点について伺う。</p> <p>① DMOにおいては、今までの観光施策の実施から、各種データ等の継続的な収集・分析、データに基づく明確なコンセプトによる戦略の策定がうたわれているが、現在どのような形でデータ収集を行い、分析しているのか。</p> <p>② 日本版DMOはその趣旨の中に、地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役という一文があるが、宮古版DMOにおいては、どのような活動を行っていくのか。</p>	

	<p>③ 現在の観光は、今までの見る観光から体験する観光へとシフトしており、日本版DMOの中でも、農林漁業において体験プログラムの提供が記載されている。当市においては平成27年に「宮古まるごと体験ガイドブック」を作成しているがこのガイドブックの効果は検証されているのか。</p> <p>④ 日本版DMOでは、行政には、観光振興計画の策定・プロモーション等の観光振興事業・インフラ整備（景観、道路、空港、港湾等）・文化財保護・活用・観光教育・交通政策・各種支援措置と様々な役割を与えられているが、市としてどのように取り組んでいくのか。</p> <p>⑤ 地域の「稼ぐ力」、地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」、農林水産業の「体験型観光」の点から、宮古版DMOでは「体験型民泊」についても研究調査する必要があるのではないかと感じている。</p> <p>当市は、広大な面積を誇っており、郊外や山間部では、なかなかそこに留まり観光することが難しい。</p> <p>そこで、「体験型民泊」のように、その地域での里山散策、川遊び、炭焼き、星空観察など一日を通してその魅力を感じ発信できる取り組みが必要だと考えるが、市の考えを伺う。</p>	
--	--	--

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 3月8日(水)

質問順位 5番

質問者 議席番号 9番 内 舘 勝 則 議 員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 合併後の評価検証をしっかりと	<p>平成26年6月定例会において、「合併後の評価検証を行い、新市建設計画及び新市基本計画の見直し、総合計画に反映すべき」との私の質問に対して、市長から「平成23年3月に発生した東日本大震災の影響もあり、計画どおり進捗していないのが実情であり、進捗状況を確認し、評価、検証を行った上で、新市建設計画を見直す。」との答弁があったが、合併後の評価検証が明確に示されていない。今後の持続可能な行政サービス体制の構築に向けた取り組みに活かしていくための課題や対応について、中長期的な視点から次の点について伺う。</p> <p>① 合併の効果及び課題は何か。</p> <p>② 旧町村部の地域コミュニティの維持はどうか。</p> <p>③ 行政に対する地域の声の反映、重複する公共施設の見直しと支所機能のあり方はどうか。</p> <p>④ 財政運営の見通しはどうか。</p>	
2 地方創生拠点整備交付金の積極的活用を	<p>地方創生拠点整備交付金の対象事業は、しごと創生(農林水産、観光、ローカルイノベーション)・地方へのひとの流れ・働き方改革・まちづくり等、幅広く、各自治体の知恵と力量が試される内容となっている。まち・ひと・しごと創生総合戦略の取り組みを実効性あるものにするため、また、財源確保を図るうえでも、新型交付金の積極的活用は不可欠である。</p> <p>特に、当市は、宮古・室蘭フェリー就航や大型クルーズ船受け入れのためのターミナル整備、遊休資産(廃校舎)の6次産業施設としての活用、若者雇用対策、移住促進、観光振興等、多岐に渡る諸課題を抱えている。当該交付金を活用し、積極的な取り組みをすべきと思うが見解を伺う。</p>	
3 西の玄関口「区界」の地域振興策について	<p>岩手県立大学総合政策学部が岩手県からの委託研究によりまとめた「宮古市区界の地域振興に係る調査研究報告書」がある。この報告書は様々な視点から調査研究されており、宮古盛岡横断道路整備後の区界周辺地域のまちづくりを構築するうえで貴重な資料である。</p> <p>この報告書を活用した区界の地域振興策についての市の考えを伺う。</p>	